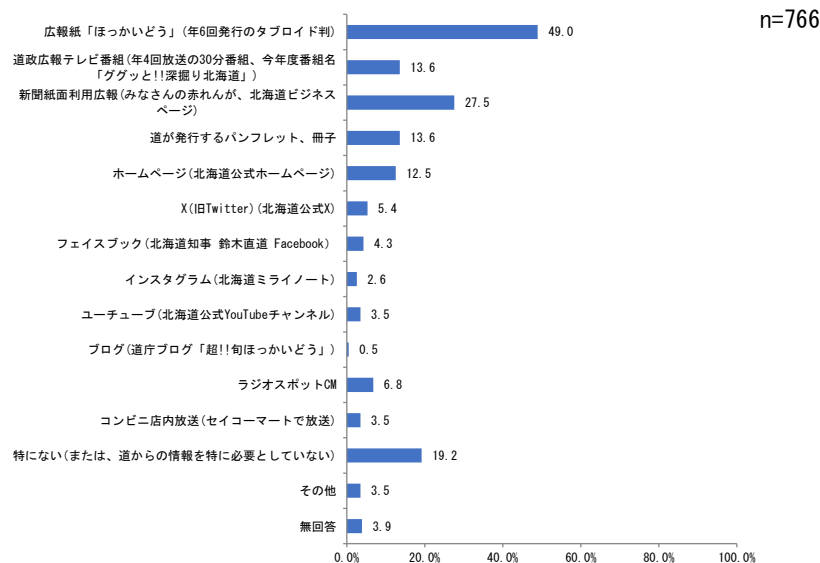


7 北海道の広報活動について

問1 あなたは、道政に関する情報をどの媒体から入手されていますか。

次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「広報紙「ほっかいどう」(49.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「新聞紙面利用広報(みなさんの赤れんが、北海道ビジネスページ)」(27.5%)、「特にない(または、道からの情報を特に必要としていない)」(19.2%)の順となっている。

【圏域別】

「広報紙「ほっかいどう」については、オホーツク連携地域(58.3%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(50.1%)となっている。「新聞紙面利用広報(みなさんの赤れんが、北海道ビジネスページ)」については、オホーツク連携地域(33.3%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(32.0%)となっている。

【人口規模別】

「広報紙「ほっかいどう」については、札幌市(54.8%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(53.8%)となっている。「新聞紙面利用広報(みなさんの赤れんが、北海道ビジネスページ)」については、人口10万人未満の市(35.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(28.0%)となっている。

【性別】

「広報紙「ほっかいどう」については、男性53.0%、女性47.6%となっており、「新聞紙面利用広報(みなさんの赤れんが、北海道ビジネスページ)」については、男性33.9%、女性24.0%となっている。

【年代別】

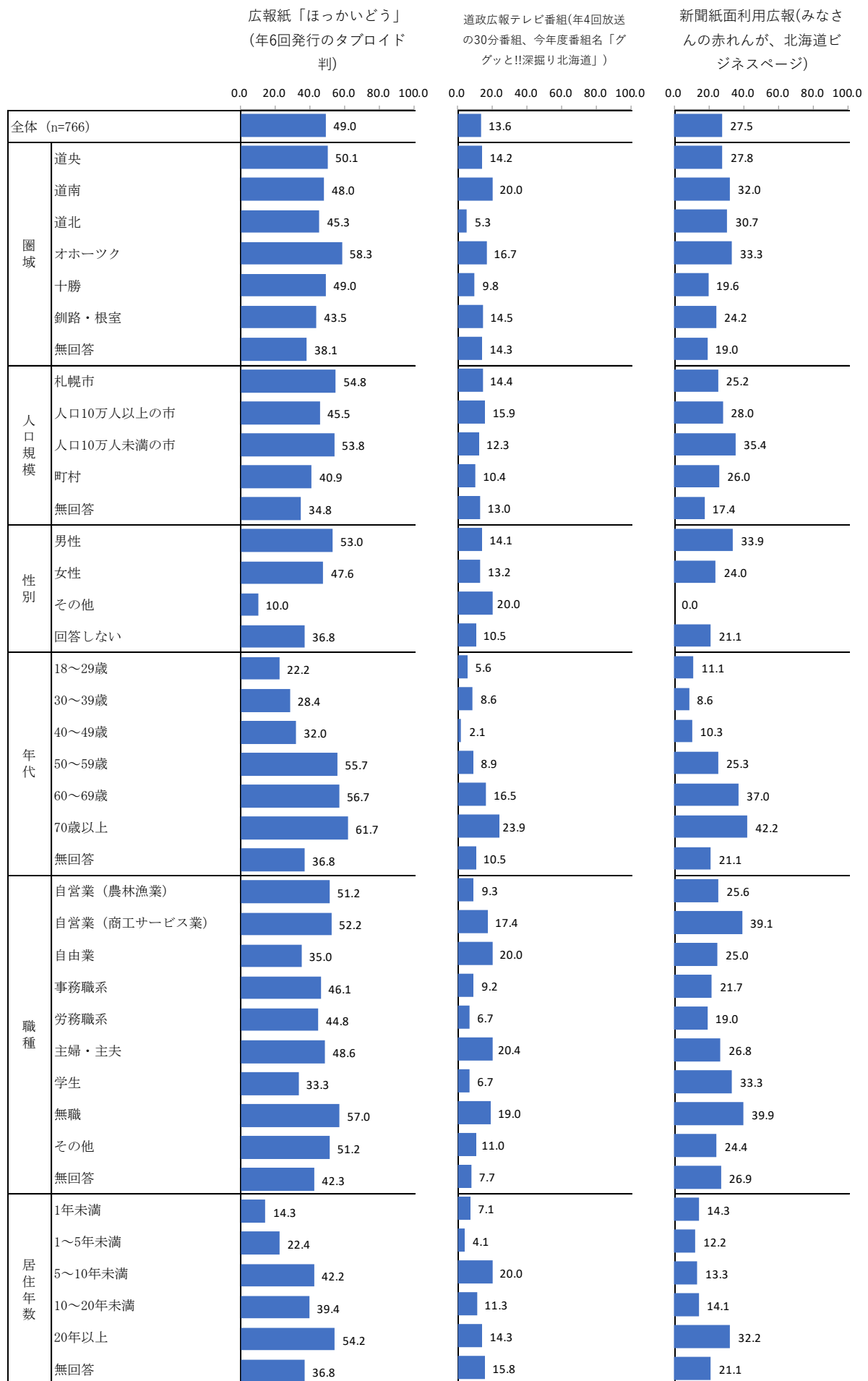
「広報紙「ほっかいどう」については、70歳以上(61.7%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(56.7%)となっている。「新聞紙面利用広報(みなさんの赤れんが、北海道ビジネスページ)」については、70歳以上(42.2%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(37.0%)となっている。

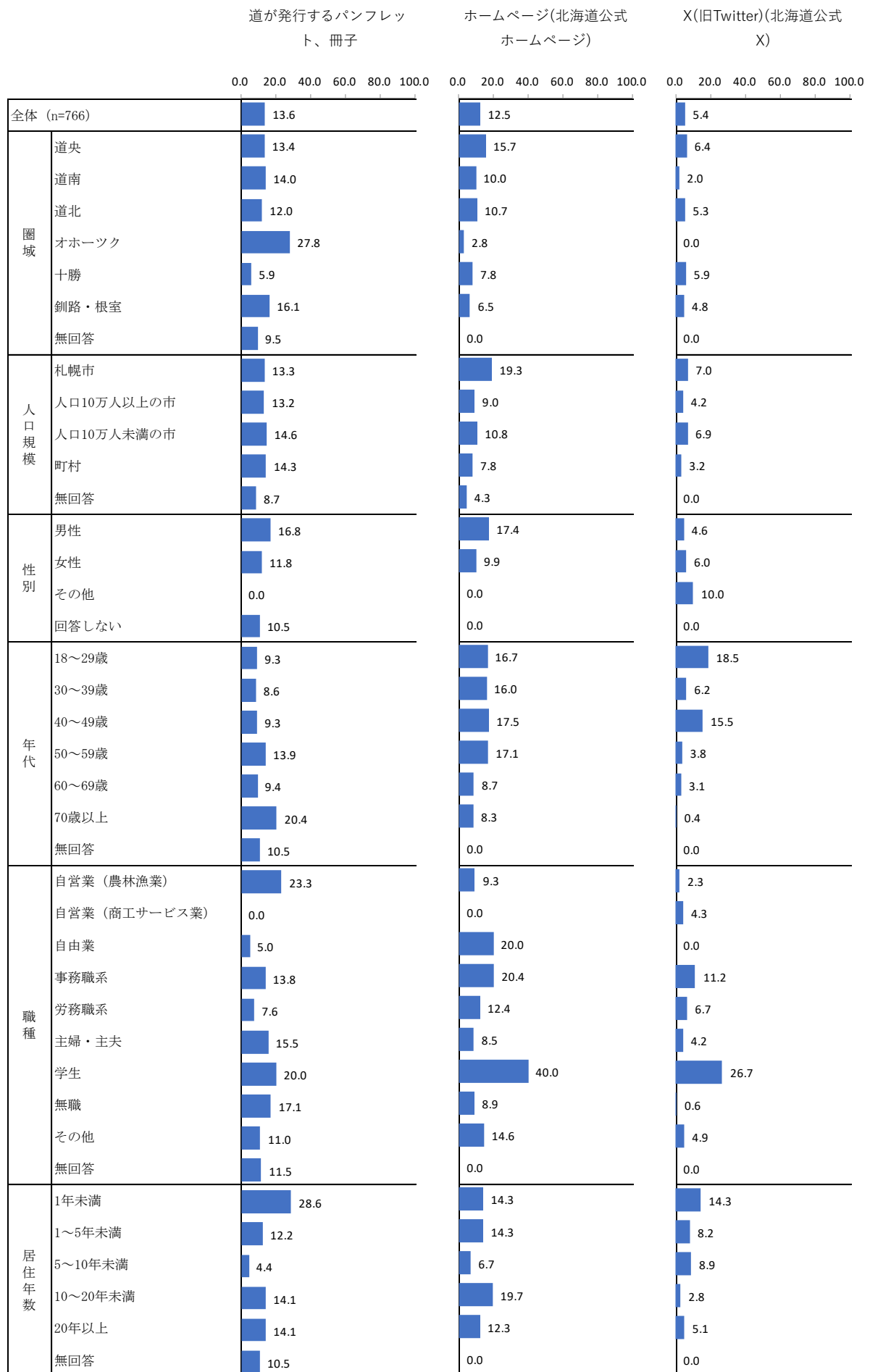
【職種別】

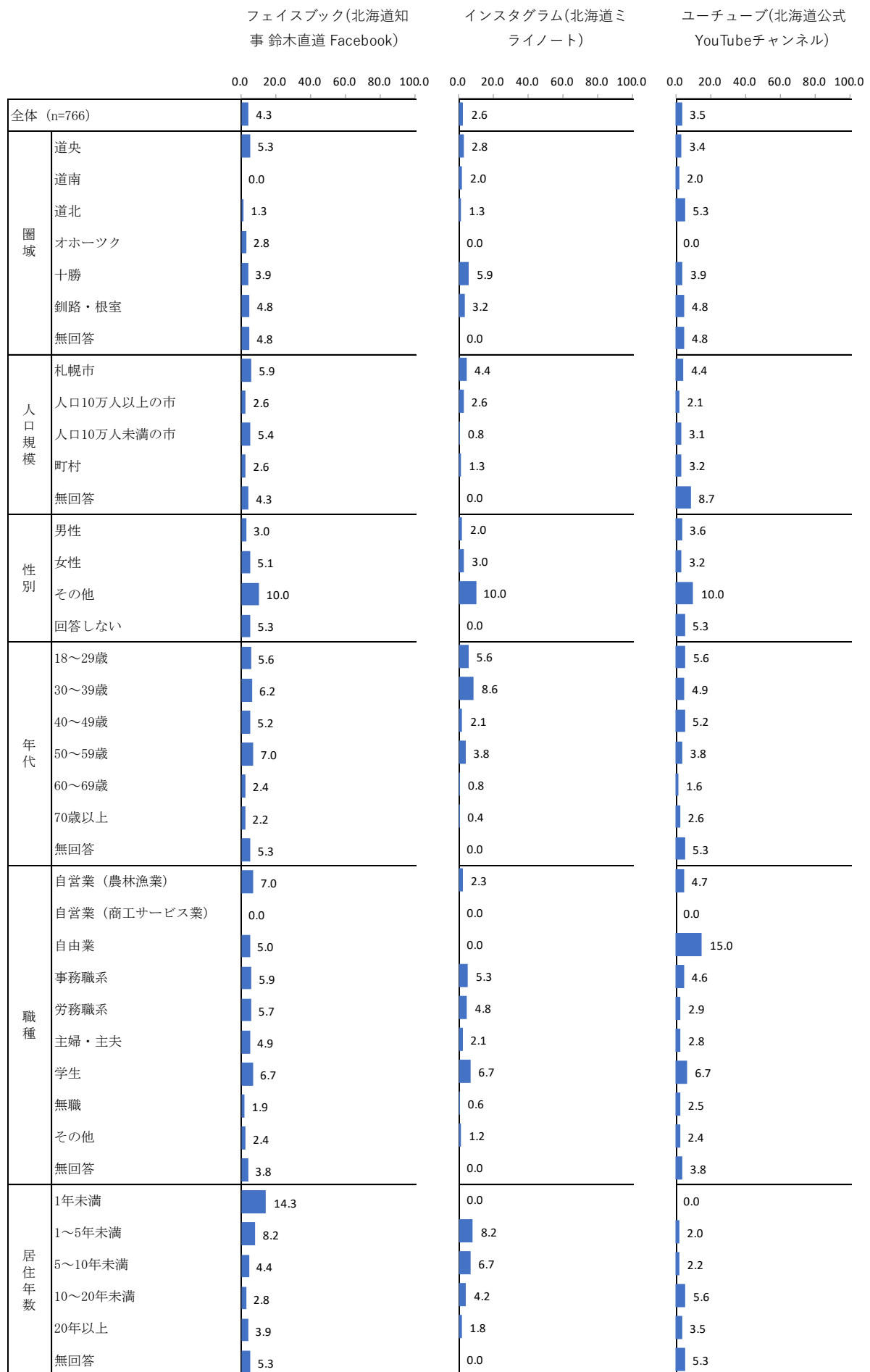
「広報紙「ほっかいどう」については、無職(57.0%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(52.2%)となっている。「新聞紙面利用広報(みなさんの赤れんが、北海道ビジネスページ)」については、無職(39.9%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(39.1%)となっている。

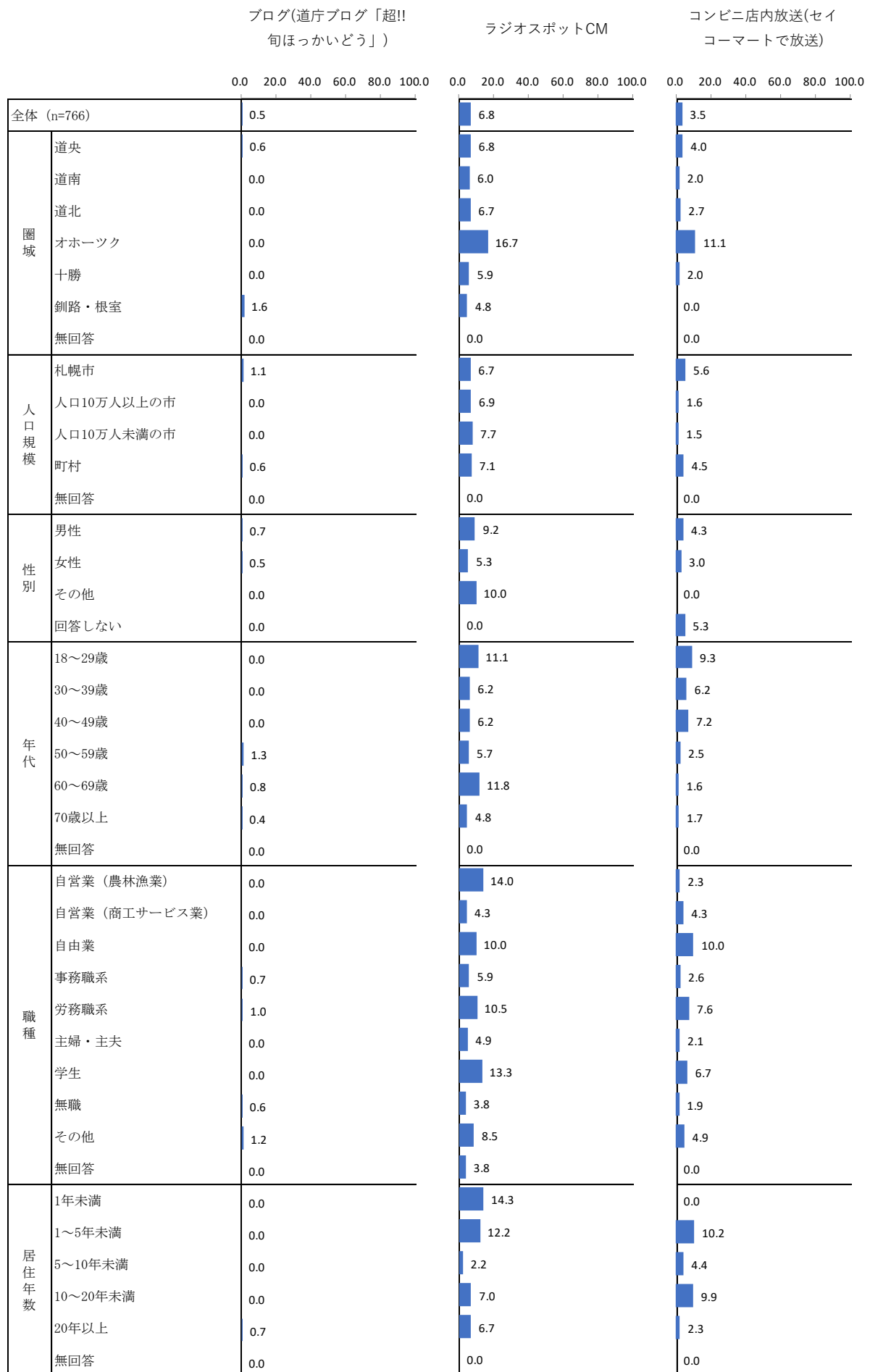
【居住年数別】

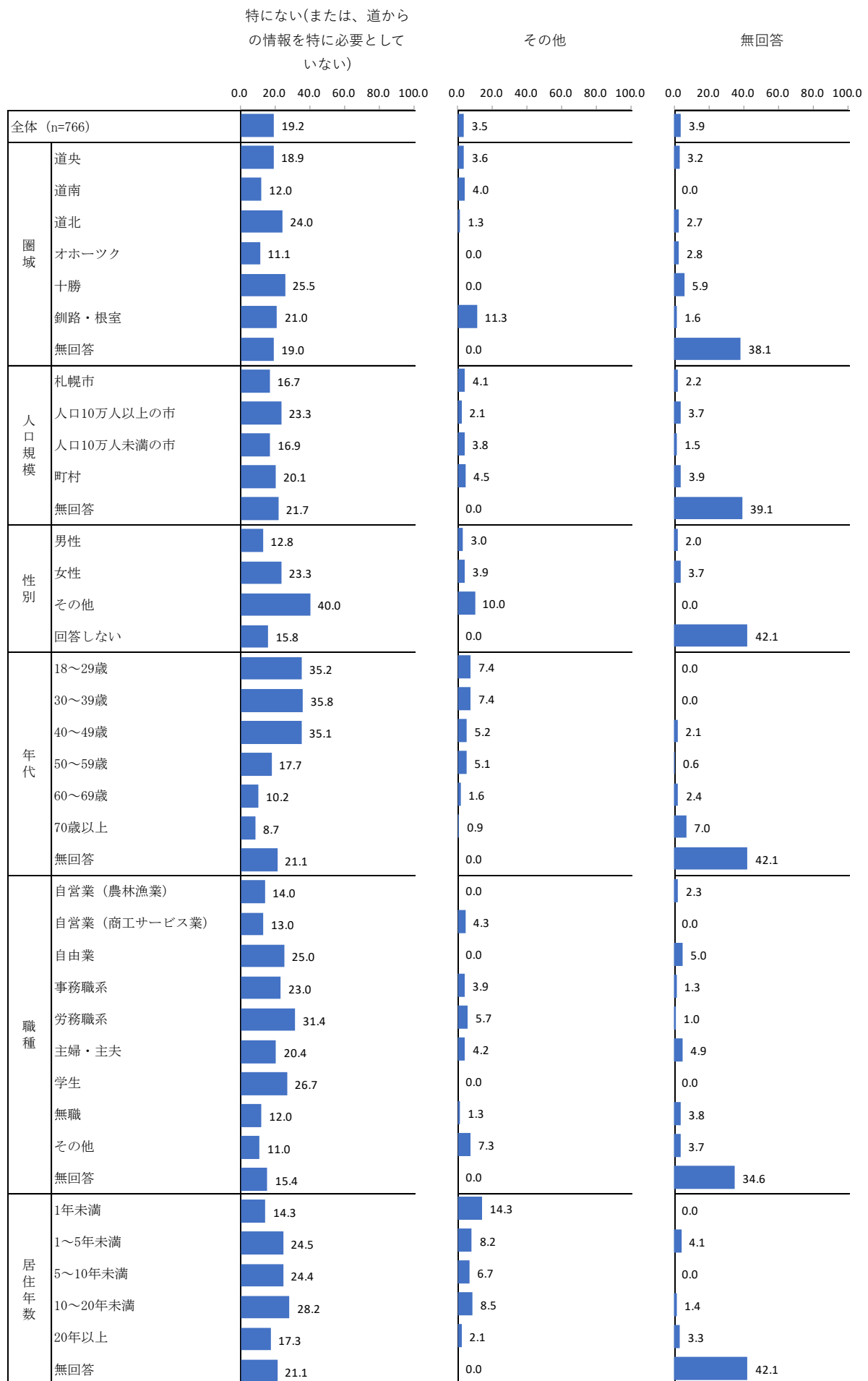
「広報紙「ほっかいどう」については、20年以上(54.2%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(42.2%)となっている。「新聞紙面利用広報(みなさんの赤れんが、北海道ビジネスページ)」については、20年以上(32.2%)が最も割合が高く、次いで1年未満(14.3%)となっている。





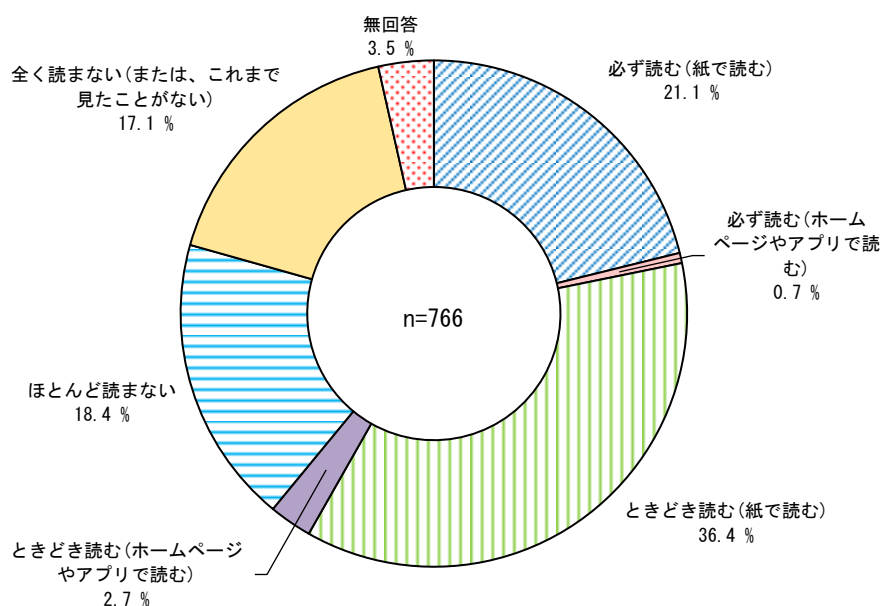






問2 あなたは、新聞折り込み等で年6回配布している広報紙「ほっかいどう」をどの程度読まれますか。

次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「ときどき読む(紙で読む)」(36.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「必ず読む(紙で読む)」(21.1%)、「ほとんど読まない」(18.4%)の順となっている。

【圏域別】

「ときどき読む(紙で読む)」については、十勝連携地域(43.1%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(41.7%)となっている。「必ず読む(紙で読む)」については、道南連携地域(24.0%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(23.6%)となっている。

【人口規模別】

「ときどき読む(紙で読む)」については、人口10万人未満の市(43.8%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(39.2%)となっている。「必ず読む(紙で読む)」については、札幌市(26.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(22.3%)となっている。

【性別】

「ときどき読む(紙で読む)」については、男性38.5%、女性36.7%となっており、「必ず読む(紙で読む)」については、男性25.0%、女性18.7%となっている。

【年代別】

「ときどき読む(紙で読む)」については、60～69歳(48.0%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(43.0%)となっている。「必ず読む(紙で読む)」については、70歳以上(34.8%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(20.9%)となっている。

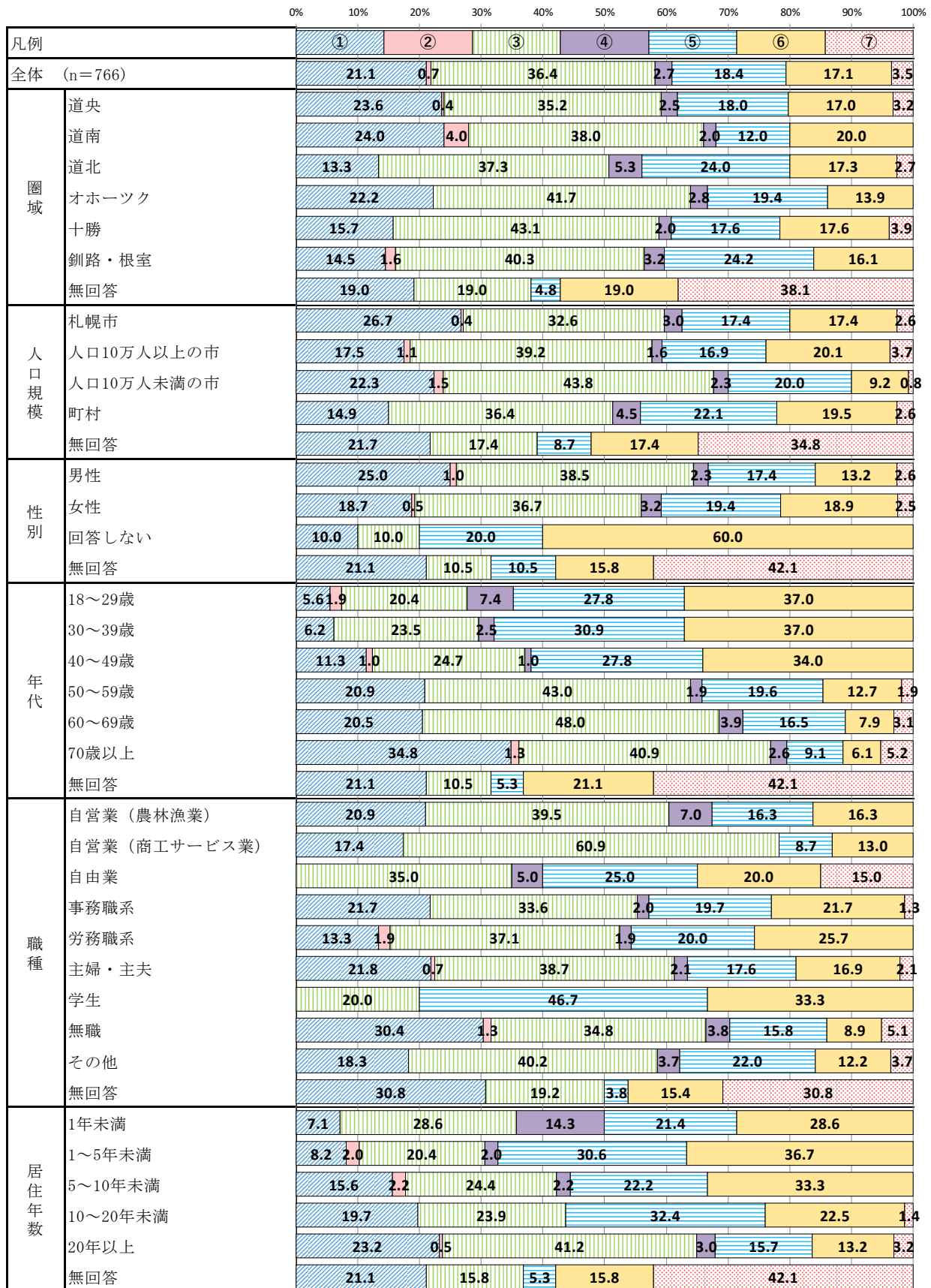
【職種別】

「ときどき読む(紙で読む)」については、自営業(商工サービス業)(60.9%)が最も割合が高く、次いで、その他(40.2%)となっている。「必ず読む(紙で読む)」については、無職(30.4%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(21.8%)となっている。

【居住年数別】

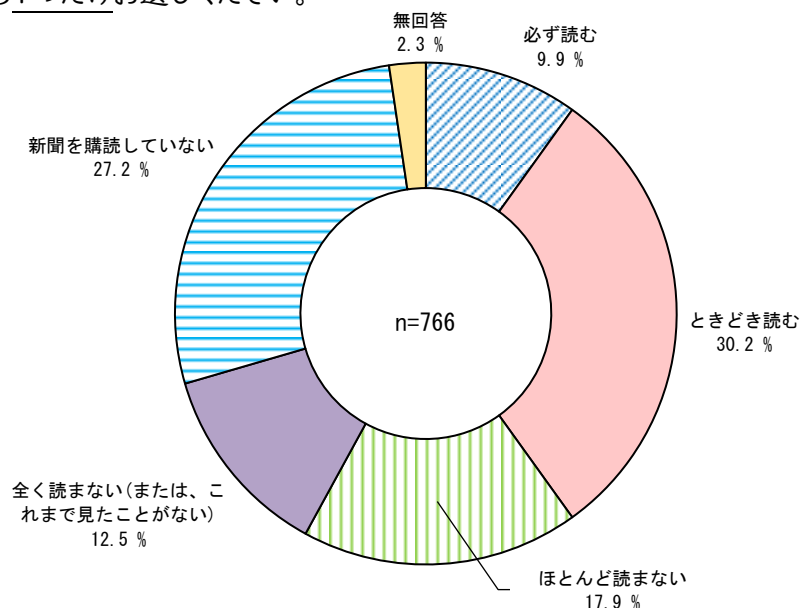
「ときどき読む(紙で読む)」については、20年以上(41.2%)が最も割合が高く、次いで1年未満(28.6%)となっている。「必ず読む(紙で読む)」については、20年以上(23.2%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(19.7%)となっている。

- ①必ず読む(紙で読む) ②必ず読む(ホームページやアプリで読む)
 ③ときどき読む(紙で読む) ④ときどき読む(ホームページやアプリで読む)
 ⑤ほとんど読まない ⑥全く読まない(または、これまで見たことがない)
 ⑦無回答



問3 あなたは、新聞紙面利用広報（「みなさんの赤れんが」（北海道新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞で年7回掲載）、「北海道ビジネスページ」（日本経済新聞で年6回掲載））をどの程度ご覧になりますか。

次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「ときどき読む」(30.2%) と答えた方の割合が最も高く、次いで「新聞を購読していない」(27.2%)、「ほとんど読まない」(17.9%) の順となっている。

【圏域別】

「ときどき読む」については、道南連携地域 (34.0%) が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域 (33.3%) となっている。「新聞を購読していない」については、十勝連携地域 (33.3%) が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域 (29.1%) となっている。

【人口規模別】

「ときどき読む」については、人口 10 万人未満の市 (38.5%) が最も割合が高く、次いで人口 10 万人以上の市と町村が同率 (28.6%) となっている。「新聞を購読していない」については、札幌市 (35.2%) が最も割合が高く、次いで人口 10 万人以上の市 (28.0%) となっている。

【性別】

「ときどき読む」については、男性 34.9%、女性 27.3% となっており、「新聞を購読していない」については、男性 19.7%、女性 31.6% となっている。

【年代別】

「ときどき読む」については、70 歳以上 (44.8%) が最も割合が高く、次いで 60～69 歳 (38.6%) となっている。「新聞を購読していない」については、30～39 歳 (55.6%) が最も割合が高く、次いで 18～29 歳 (46.3%) となっている。

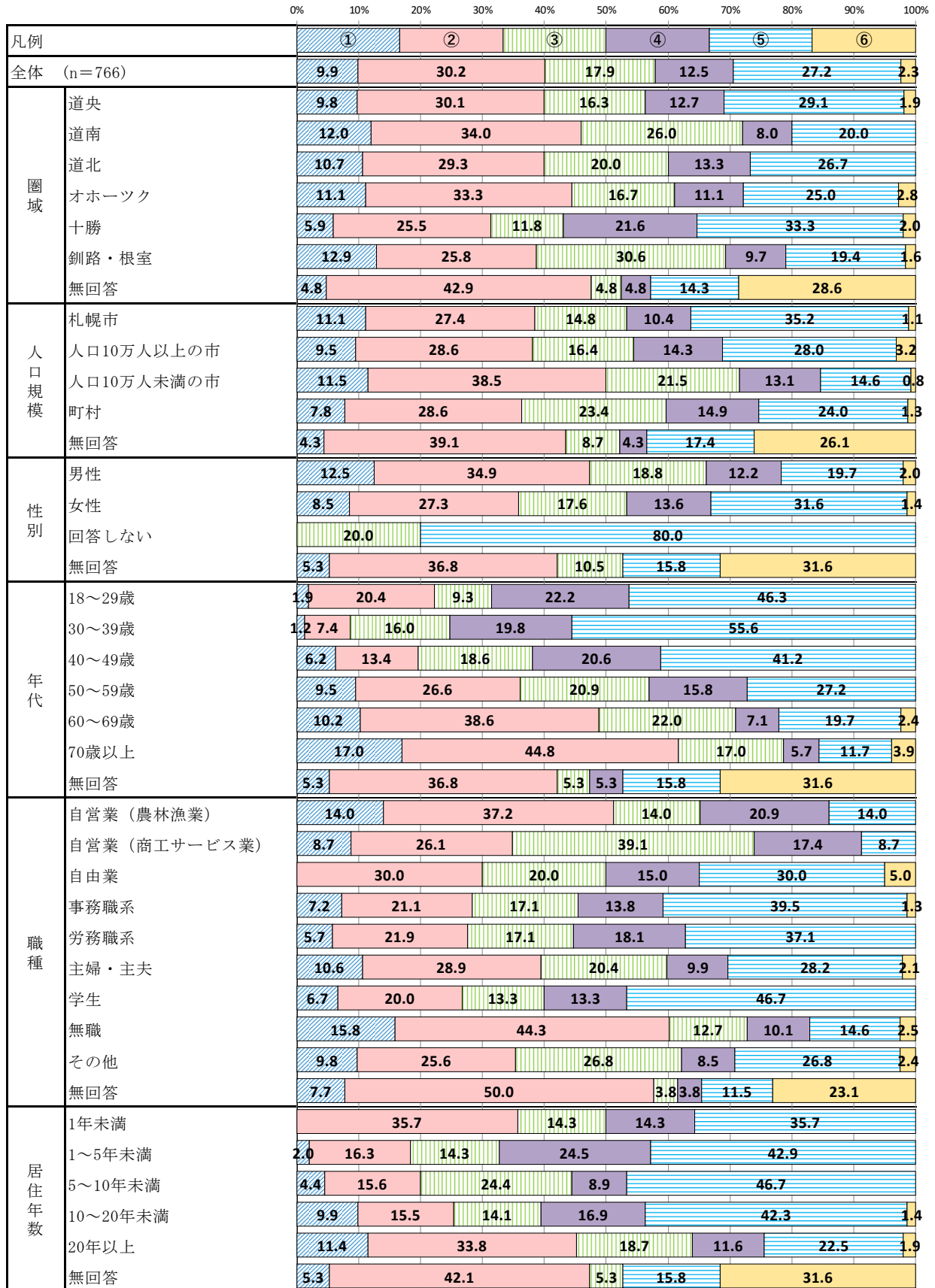
【職種別】

「ときどき読む」については、無職 (44.3%) が最も割合が高く、次いで自営業 (農林漁業) (37.2%) となっている。「新聞を購読していない」については、学生 (46.7%) が最も割合が高く、次いで事務職系 (39.5%) となっている。

【居住年数別】

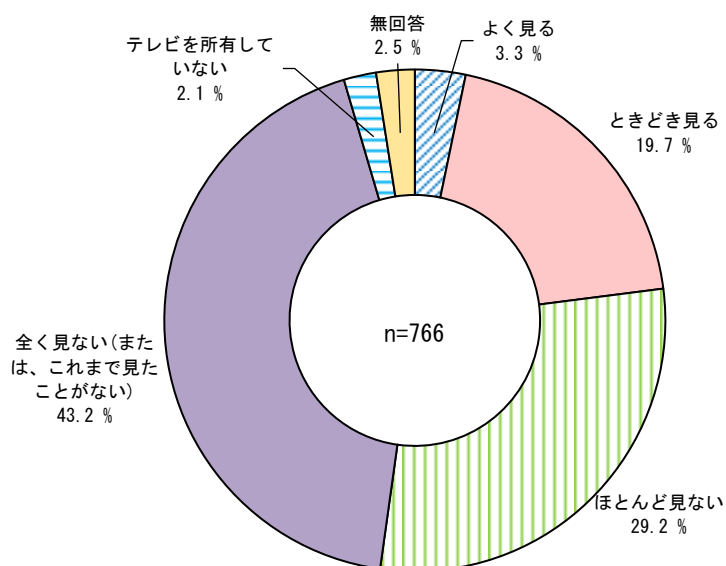
「ときどき読む」については、1 年未満 (35.7%) が最も割合が高く、次いで 20 年以上 (33.8%) となっている。「新聞を購読していない」については、5～10 年未満 (46.7%) が最も割合が高く、次いで 1～5 年未満 (42.9%) となっている。

- ①必ず読む ②ときどき読む ③ほとんど読まない
 ④全く読まない(または、これまで見たことがない) ⑤新聞を購読していない
 ⑥無回答



問4 あなたは、年4回放送している道政広報テレビ番組（30分番組、今年度番組名「ググッと!!深掘り北海道」）をどの程度ご覧になりますか。

次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「全く見ない(または、これまで見たことがない)」(43.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「ほとんど見ない」(29.2%)、「ときどき見る」(19.7%)の順となっている。

【圏域別】

「全く見ない(または、これまで見たことがない)」については、道北連携地域(52.0%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(49.0%)となっている。「ほとんど見ない」については、釧路・根室連携地域(41.9%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(35.3%)となっている。

【人口規模別】

「全く見ない(または、これまで見たことがない)」については、人口10万人未満の市(46.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(45.5%)となっている。「ほとんど見ない」については、町村(34.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(29.6%)となっている。

【性別】

「全く見ない(または、これまで見たことがない)」については、男性37.2%、女性47.8%となっており、「ほとんど見ない」については、男性32.6%、女性27.3%となっている。

【年代別】

「全く見ない(または、これまで見たことがない)」については、30～39歳(71.6%)が最も割合が高く、次いで18～29歳(64.8%)となっている。「ほとんど見ない」については、60～69歳(37.0%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(33.9%)となっている。

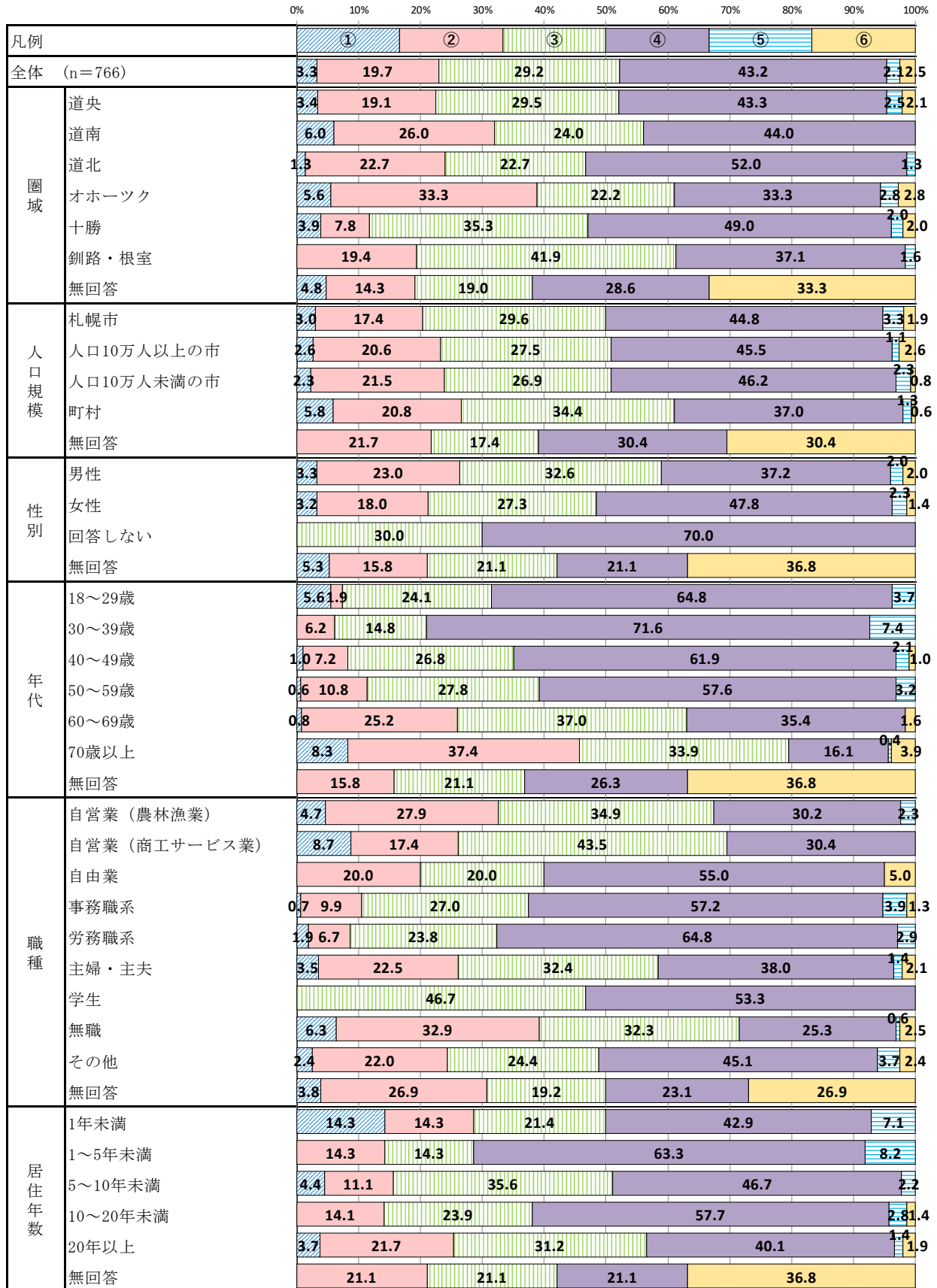
【職種別】

「全く見ない(または、これまで見たことがない)」については、労務職系(64.8%)が最も割合が高く、次いで事務職系(57.2%)となっている。「ほとんど見ない」については、学生(46.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(43.5%)となっている。

【居住年数別】

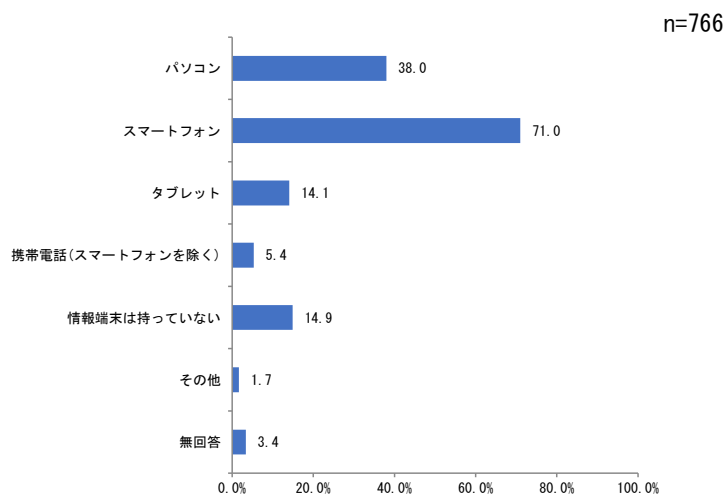
「全く見ない(または、これまで見たことがない)」については、1～5年未満(63.3%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(57.7%)となっている。「ほとんど見ない」については、5～10年未満(35.6%)が最も割合が高く、次いで20年以上(31.2%)となっている。

- ①よく見る ②ときどき見る ③ほとんど見ない
④全く見ない(または、これまで見たことがない) ⑤テレビを所有していない
⑥無回答



問5 あなたは、普段、自宅や職場ではどのような機器（情報端末）を使って、インターネットからの情報を入手していますか。

次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「スマートフォン」(71.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「パソコン」(38.0%)、「情報端末は持っていない」(14.9%)の順となっている。

【圏域別】

「スマートフォン」については、十勝連携地域(76.5%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域と道北連携地域が同率(74.7%)となっている。「パソコン」については、十勝連携地域(45.1%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(43.5%)となっている。

【人口規模別】

「スマートフォン」については、札幌市(75.6%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(74.6%)となっている。「パソコン」については、札幌市(44.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(36.9%)となっている。

【性別】

「スマートフォン」については、男性70.4%、女性73.0%となっており、「パソコン」については、男性45.7%、女性33.5%となっている。

【年代別】

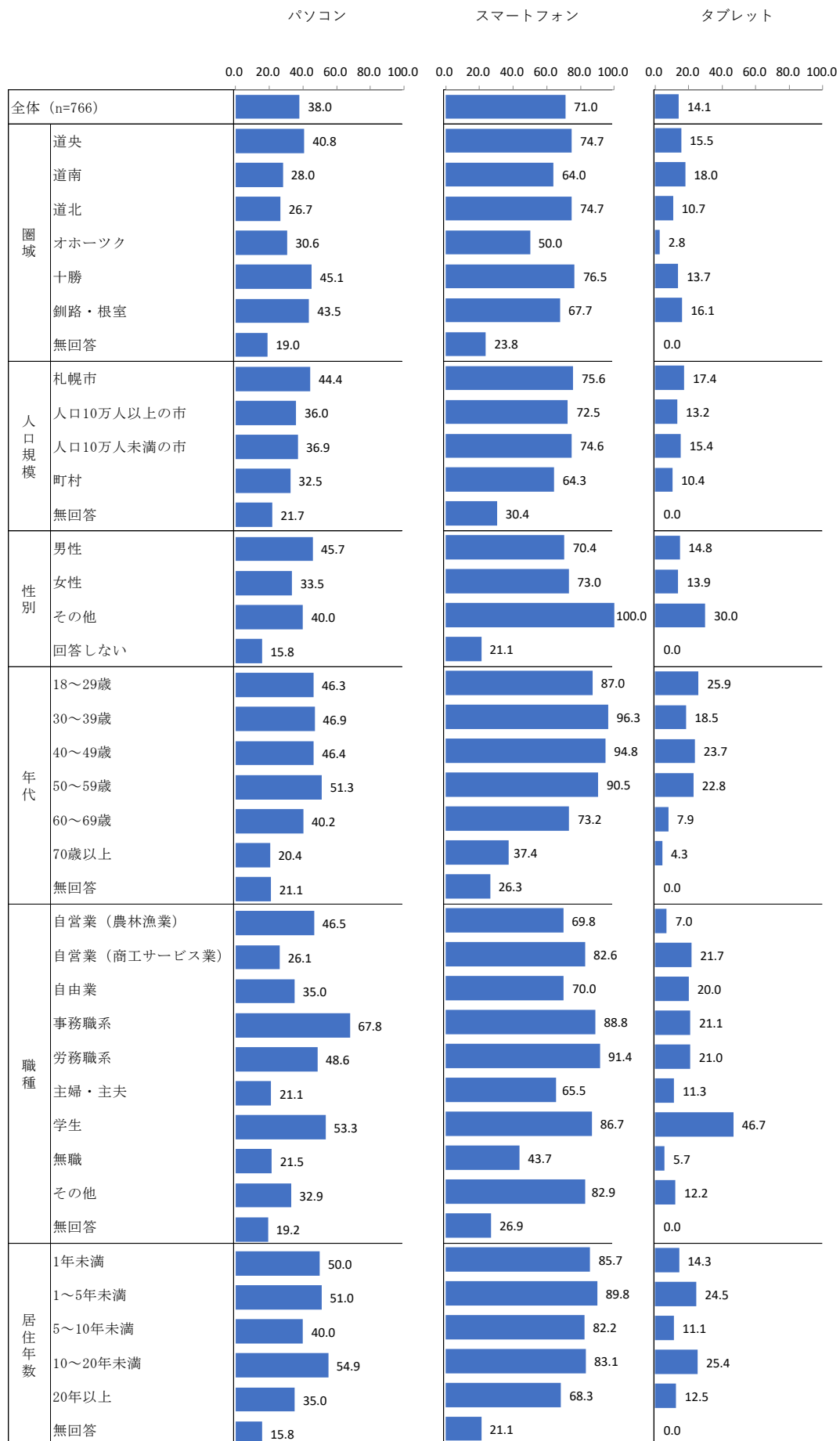
「スマートフォン」については、30～39歳(96.3%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(94.8%)となっている。「パソコン」については、50～59歳(51.3%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(46.9%)となっている。

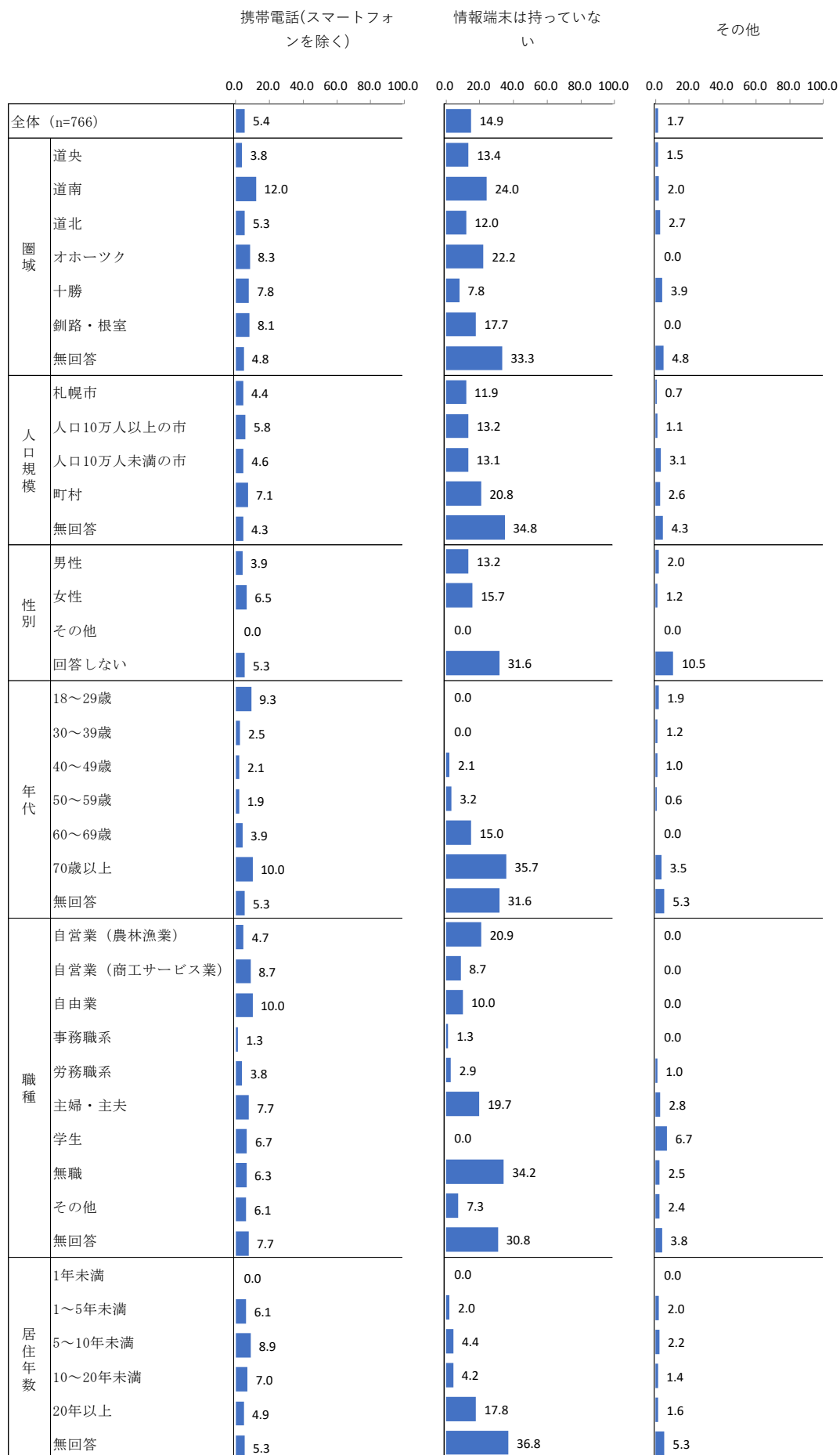
【職種別】

「スマートフォン」については、労務職系(91.4%)が最も割合が高く、次いで事務職系(88.8%)となっている。「パソコン」については、事務職系(67.8%)が最も割合が高く、次いで学生(53.3%)となっている。

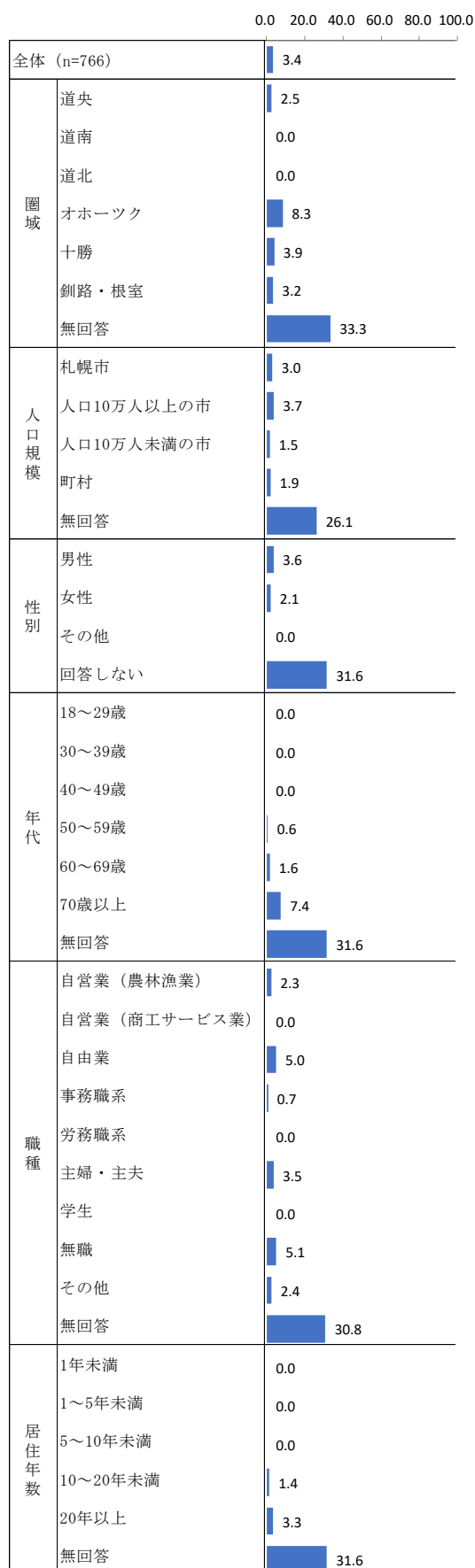
【居住年数別】

「スマートフォン」については、1～5年未満(89.8%)が最も割合が高く、次いで1年未満(85.7%)となっている。「パソコン」については、10～20年未満(54.9%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(51.0%)となっている。





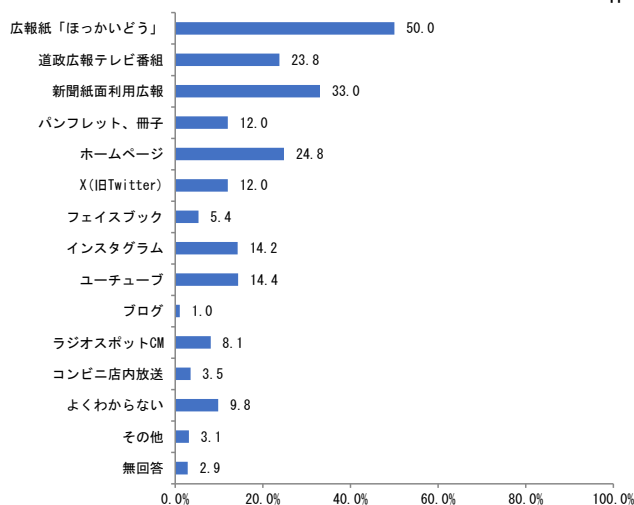
無回答



問6 あなたは、今後、道政に関する情報を入手する際に、どのような広報媒体を主に利用したいと思いますか。

次の中からいくつでもお選びください。

n=766



【全体】

「広報紙「ほっかいどう」」(50.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「新聞紙面利用広報」(33.0%)、「ホームページ」(24.8%)の順となっている。

【圏域別】

「広報紙「ほっかいどう」」については、オホーツク連携地域(66.7%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(58.1%)となっている。「新聞紙面利用広報」については、道南連携地域(44.0%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(38.9%)となっている。

【人口規模別】

「広報紙「ほっかいどう」」については、人口10万人未満の市(56.9%)が最も割合が高く、次いで札幌市(54.8%)となっている。「新聞紙面利用広報」については、人口10万人未満の市(40.8%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(36.5%)となっている。

【性別】

「広報紙「ほっかいどう」」については、男性54.6%、女性49.9%となっており、「新聞紙面利用広報」については、男性39.1%、女性30.9%となっている。

【年代別】

「広報紙「ほっかいどう」」については、70歳以上(71.3%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(59.5%)となっている。「新聞紙面利用広報」については、70歳以上(57.8%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(44.1%)となっている。

【職種別】

「広報紙「ほっかいどう」」については、自営業(商工サービス業)(65.2%)が最も割合が高く、次いで無職(62.7%)となっている。「新聞紙面利用広報」については、無職(51.3%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(43.5%)となっている。

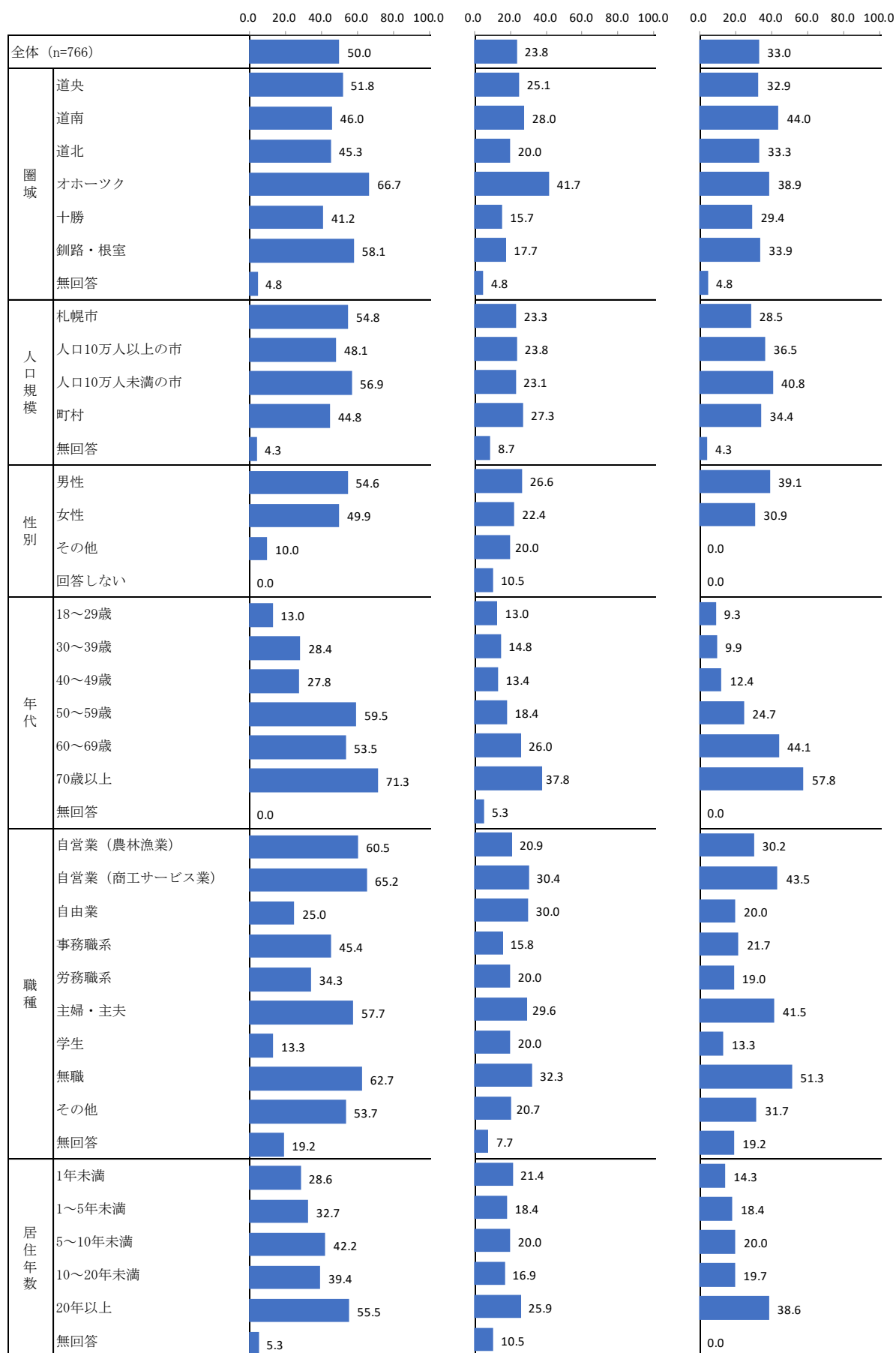
【居住年数別】

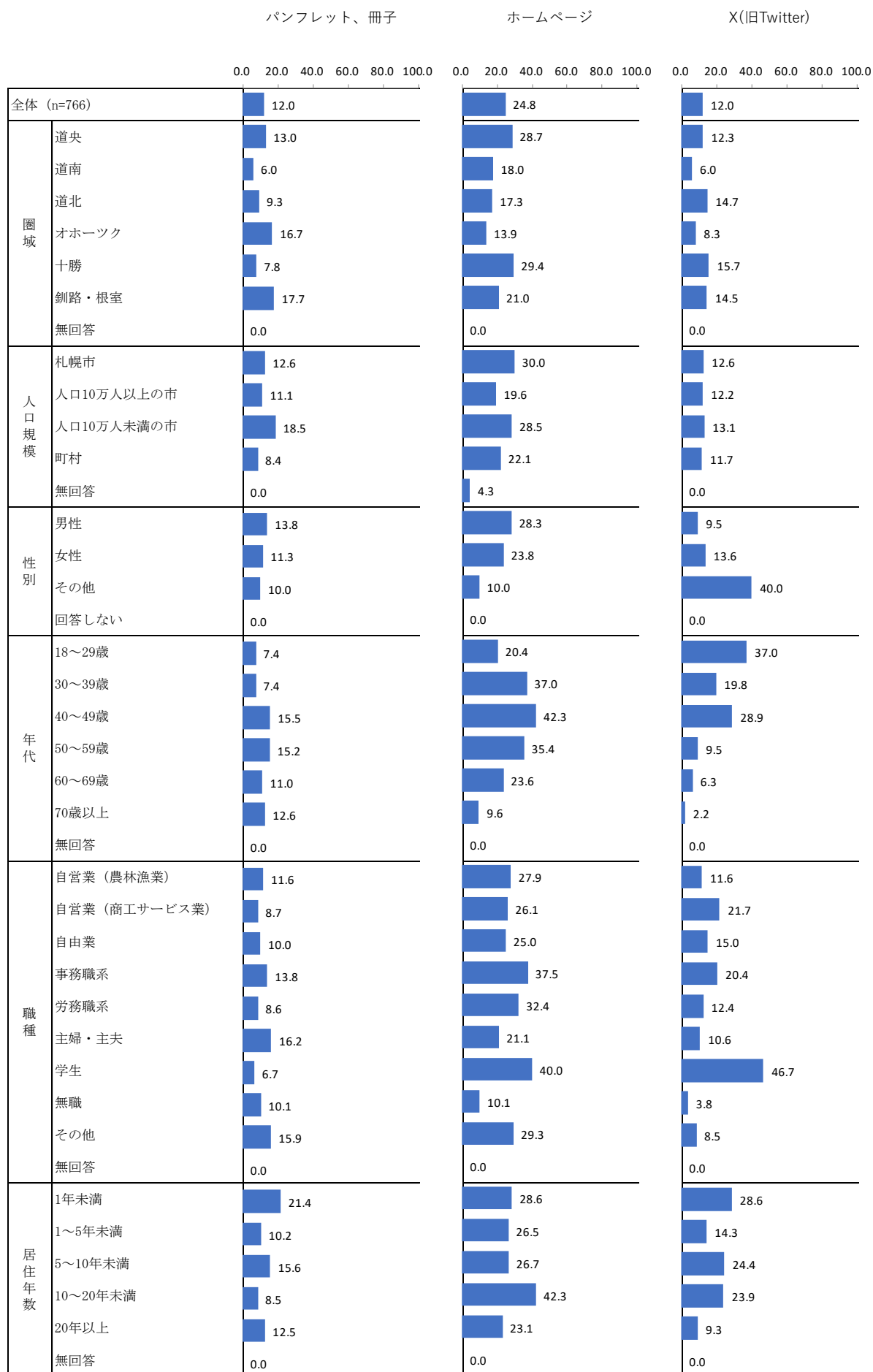
「広報紙「ほっかいどう」」については、20年以上(55.5%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(42.2%)となっている。「新聞紙面利用広報」については、20年以上(38.6%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(20.0%)となっている。

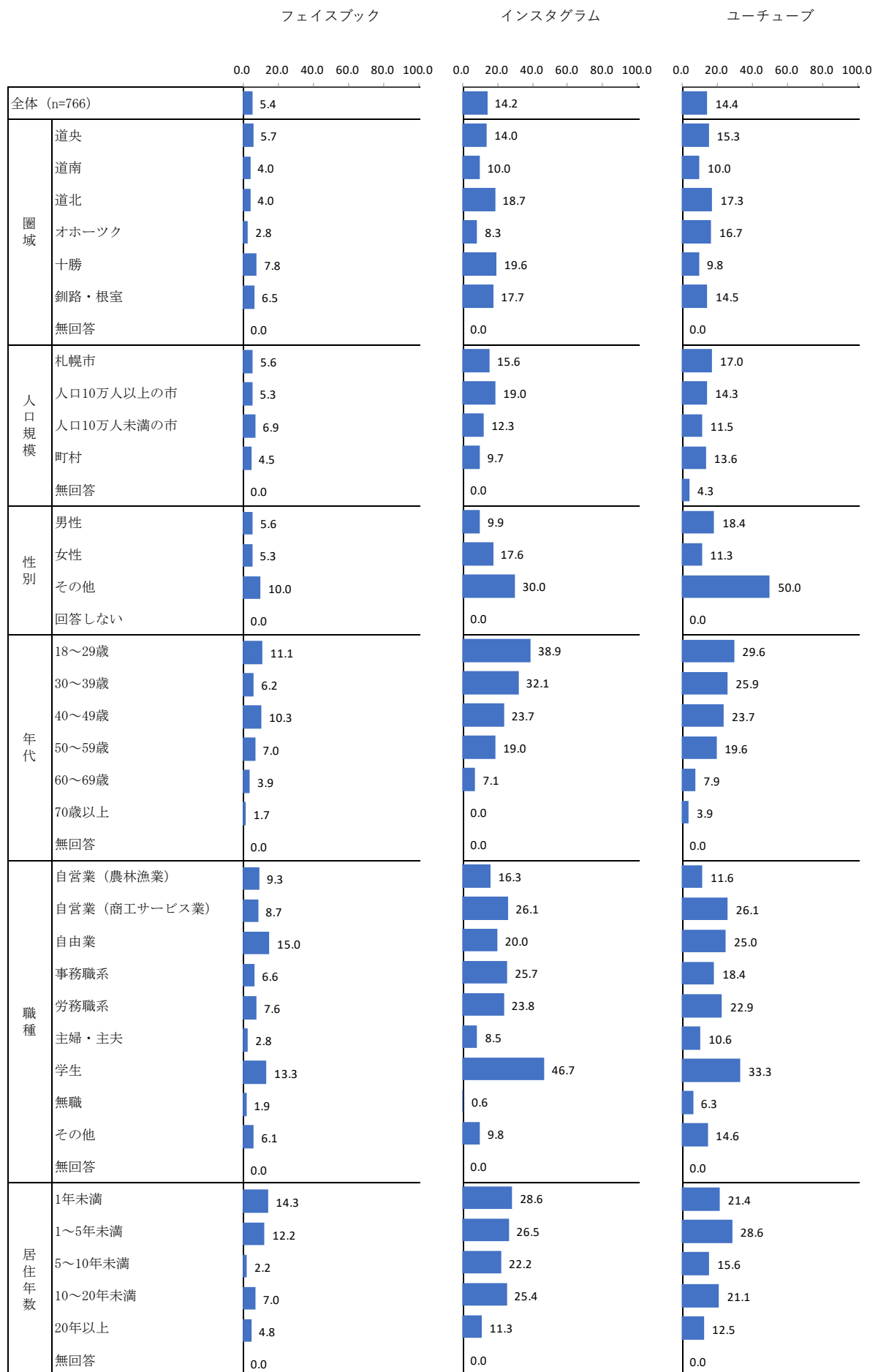
広報紙「ほっかいどう」

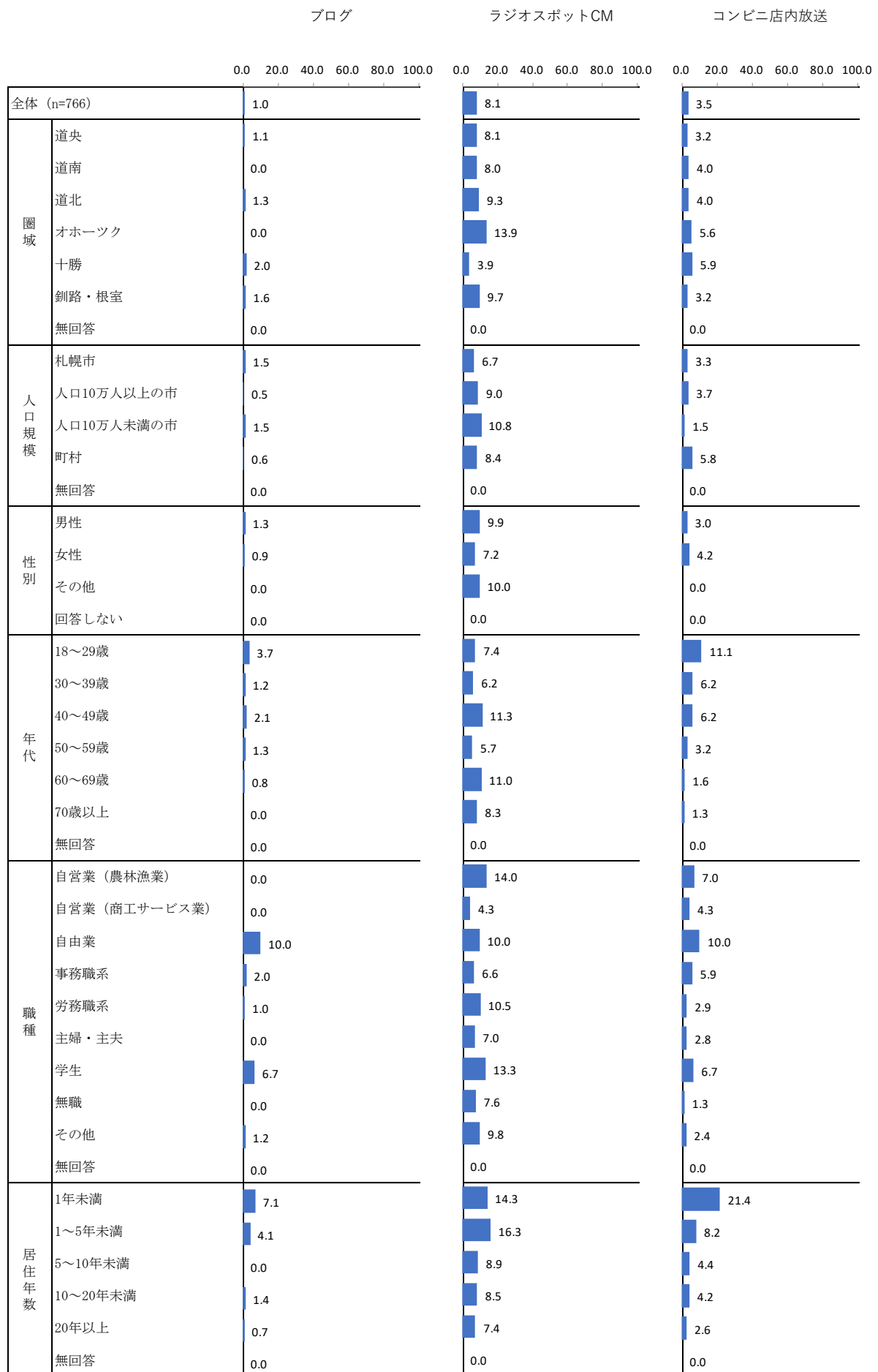
道政広報テレビ番組

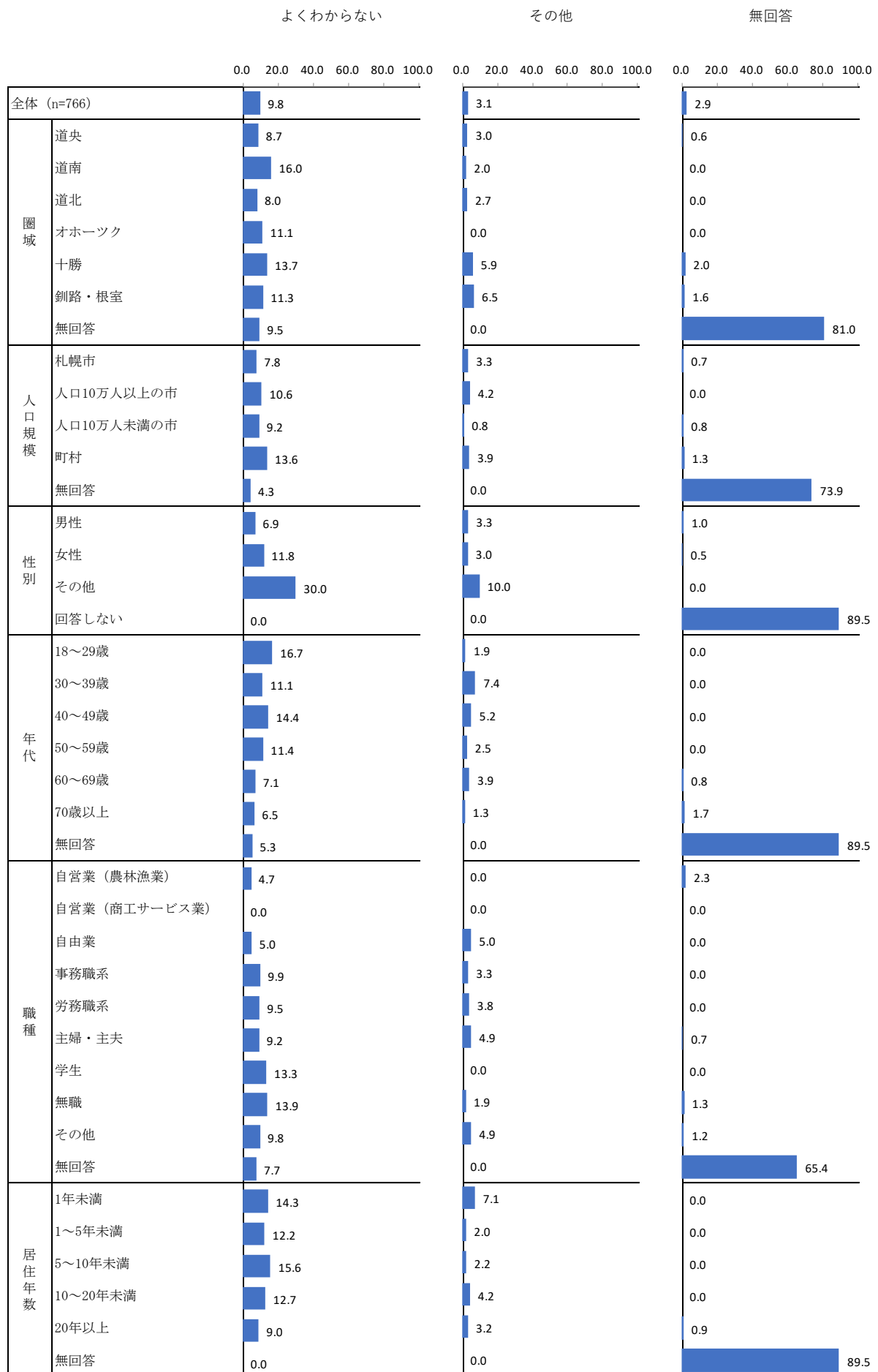
新聞紙面利用広報











「北海道の広報活動について」の調査を終えて

道政情報を入手する手段については、広報紙「ほっかいどう」が約5割（49.0％）となっているほか、新聞紙面利用広報の割合（27.5％）が高くなっている。

インターネットから情報を入手する手段について、スマートフォンが約7割（71.0％）、パソコンが約4割（38.0％）となっている。

また、今後、道政情報を入手する際に利用したい広報媒体については、広報紙「ほっかいどう」（50.0％）や新聞紙面利用広報（33.0％）、ホームページ（24.8％）が高い割合となっている。

年代別では、高齢者層は広報紙、新聞紙面利用広報の割合が高い一方、若年者層はInstagramやX（旧 Twitter）、ユーチューブなど、主にスマートフォンによる利用が想定されるソーシャルメディアの割合が高くなっている。

今回の調査結果からは、紙媒体の必要性や、インターネットによる情報入手のニーズの高さに加え、情報入手手段としてスマートフォンが普及している状況が見られたことから、それぞれの媒体の特性を活かし、相互補完を一層進めるなど、メディアの利用環境の変化なども踏まえながら、引き続き効果的な広報のあり方を検討していく。

（総合政策部知事室広報広聴課）

